



ファビオ・ザノン

デイヴィッド・ラッセル

福田進一

ベルナルド・マイヨ

アルバロ・ピエリ

マヌエル・バルエコ

ロバート・ブライトモア

©Thérèse Wassily Saba

第20回 コブレンツ 国際ギターフェスティバル & アカデミー 2012

コブレンツの街はドイツ南西部、モーゼル河とライン河の合流域に位置する。両河の合流点は Deutsches Eck (ドイツの角) と呼ばれ、河川交通の要所・観光名所として知られている。この街で毎年開催されている「コブレンツ国際ギターフェスティバル & アカデミー」も 2012 年で第 20 回目を迎えた。この記念すべきフェスティバル (5 月 21 ~ 28 日) の様子をワシリー・サバ氏のレポートによりお伝えする。

(文・写真: テレーズ・ワシリー・サバ / 翻訳: 関塚亮司)
Thérèse Wassily Saba Ryoji Sekizuka

❖ オープニング・ナイト・コンサート

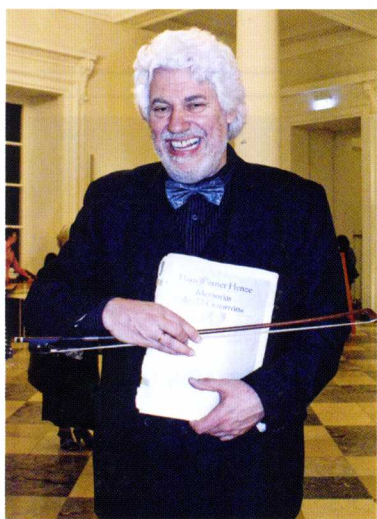
コブレンツ国際ギターフェスティバル & アカデミーは、今年で 20 回目になる。そこで、オープニング・ナイト・コンサートでは特別なイベントとして、このフェスティバルを長年サポートしてきたコブレンツ市長ヨアヒム・ホフマン=ゴートイッヒ博士、ライン地方 LOTTO 理事ヘルベルト・ラウ

バッハ、コブレンツ国際ギター協会長リヒャルト・コッホ・セムナーのスピーチが行なわれた。このコンサートの演奏者選ばれたのは、コブレンツ国際ギターアカデミーの 2 人の指導者アニエロ・デシデリオとフーバート・ケッペルだった。

フーバート・ケッペルは、これまで 20 年間にわたり、フェ

スティバル開催に重要な役割を担ってきた。今回は彼は、1993 年に開かれた第 1 回フェスティバルと同じプログラムを演奏した。レオ・ブローウエル〈カンティクム〉の迫力のある演奏で始まったが、ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ〈逃亡奴隷 (エル・シマロン) ~ エステバン・モンテホの自叙伝〉は、記憶に残るような名演奏だった。このヘンツェの作品は、エステバン・モンテホという逃亡奴隷の物語であるが、ケッペルは複雑なギターパートを演奏しながら、同時にドイツ語でストーリーを語った。物語の雰囲気を作り出すために、ギターをタッピングしてリズムを出したり、ヴァイオリンの弓を使ってギターを弾いたり、口笛や舌打ちの音を出したりと、テクニクを駆使していた。難曲にもかかわらず、フーバート・ケッペルの演奏は素晴らしかった。

第 2 部の始めに、アニエロ・デシデリオがアグアドの〈ファンダンゴと変奏〉を演奏し始めると、ホール全体が完璧な静寂に包まれた。繊細な *pp* で始まった彼の明るくデリケートなアーティキュレーションが、聴衆の心をとらえ、ホール全体に音が響き渡った。コスト〈旅立ち〉でも、同じように美しく素晴らしいギターの音を響かせた。ブローウエル〈オリシャスの祭礼〉では、まるで脅迫するように響く低音の繰り返しによって作り出さ



フーバート・ケッペル: 手にしているのは H.W. ヘンツェ作品の演奏に使用したヴァイオリンの弓と楽譜 (5 月 21 日夜) ©Thérèse Wassily Saba

